## 東京の木・多摩産材の取り組み

有限会社 中嶋材木店 代表取締役 中嶋 博幸

東京都の森林面積は、約8万haであり都の総面積の4割近くに及びます。その森林の約7割が多摩地 域西部に偏在しているため東京の木を多摩産材と呼称しています。

全国規模でみれば多摩産材の産業は小規模ですが、伐採し利用している量よりも日々育って増えている蓄積量の方が数倍多いですし、日本自体が世界でも森林率トップクラスの国ですから、需要の創出と各ジャンルの人材育成をしていけば、まだまだ伸びしろもあり持続可能な資源であります。

日本全国に山河がありその資源を有効活用し、産業も環境も健全な状態で維持し継承していくことは 重要であり、少なからずとも東京にもその資源があり、それを活かしていくのが私たちの使命でありま す。

当社はいまでこそ多摩産材専門製材所でありますが、以前は米ヒバ・米松・米ツガの役物原木を製材する100%米材製材工場でした。

バブル経済が終焉した1990年代後半のころから製材品の需要も役物は貼物建材や集成材などへと変わり、また役物米材原木も年々明らかに小径木化し価格だけは上がっていくという資源環境の変化を日々感じながら製材をしておりましたが、ふと周辺の森林を見渡せば、戦後植林した人工林が育ってきており、「山間部にある製材所として、これら資源を活かしていくべきでは?」との思いから、地場産材である多摩産材の製材へとシフトして現在に至ります。

その後、石原都知事による花粉対策事業や、国からは公共建築木材利用促進法が施行されるなど、森林法の改正や森林整備や木材自給率の向上策など国産材生産に対する行政の対応にも変化が生じてきました。そして、林業や製材所への設備投資に対する補助制度も充実してきたこともあり当社でも、ツイ

ンバンドソー、木材乾燥機、グレーディ ングマシンなど国産材製材に不可欠な設 備も増設してきました。

また、木材製品の利用促進には木材のトレーサビリティーが重要であることから、多摩産材認証制度、国際森林認証制度の取り組みには行政と一緒になって積極的に進めてきましたし、公共建築や施設建築資材としては品質の見える化の必要性も感じ、製材JAS認定も早めに取得してきました。

しかしながら、私たちは製材所であり



グレーディングマシンによる性能表示

板材や角材にして乾燥する技術しかありませんし、現場や設計事務所に通う営業マンもおりませんので、これでは木材の新たな需要は創出できないと感じました。また何でもかんでも自分でつくろうとしても 品質も生産性も中途半端になるため、特異性のある木材加工技術があり建材化した木製品を設計事務所 と繋がりながら現場に送り出すノウハウがあるメーカーと連携し、私たちはそのニーズに見合った認証 木材の安定供給をする役目に徹することのほうが現実的で合理的であるとの考えから、連携先を増やすことに注力してきました。

不燃木材、防腐木材、圧密木材、高温熱処理、突板建材、造作集成材、中断面・大断面構造用集成材、ハイブリット集成材、CLT、WOODALC、家具・玩具・什器、建具、複合フロア材など受注生産品を製造する事業所へ希望にみあった納期で製材品の供給ができるようにしたり、一般建築部材では安定した出口をもっている地場産材に拘った工務店などと連携して、工場見学の受け入れやセミナーなど消費者へのPR活動などを協力したり、お互い様で対等な間柄での流通を構築することを心がけています。



工務店とお施主さんたちによる製材工場見学ツアー

大量につくり大きなマーケットへ挑むのが大手製材ですが、私たちのように規模の小さな産業は、それぞれの特異性を活かしあえる仲間と協力しながら安定した出口をつくってこそ、安定経営の継続が望めると考えています。

多摩産材の産業規模ではまだ残念ながら大手製材工場のように規格品を大量に市場へ送り出すことはできませんが、東京都での取り組みのように国産材と多摩産材とを適材適所で活用を促していきながら、新たな木材需要を創出していくことも国産材や地場産材の発展への一助になると思うのです。

木材ショックにより、国産原木価格も製品価格も上昇し困惑しているかたも多いと思います。多摩産 材も一般建築材アイテムである、柱、土台などは過熱気味とも言える原木価格がこのところ続いていま す。

外材入荷が安定してくるまでこの現象はまだ続くのかもしれませんが、私たちはこの機会に新たな需要や新たな仕組みを創出するチャンスでもあるとも捉え、その一例として今まで需要が少なかった梁の需要を創出していく事業計画を進めています。

特に丸太径が太くなってきているスギを活かすべき時であり、次年度にむけ新たな設備導入計画も進行中です。

梁用途への課題は、米松や集成材などに比べ曲げ強度や、価格面、安定供給面で劣ることでありましたが、価格面においてはこのウッドショックにより逆転現象が起きており優位性が生じてきましたし、安定供給に関しては、無理に背伸びはせず生産規模に見合ったパートナーを構築しながら、地域材の魅力を伝え付加価値をつけながら徐々に増やしていけば良いと考えています。曲げ強度に関しては、一般住宅であれば高い強度が必要な部位はさほど多くなく、そこは従来通りの材で対応して、スギの曲げ強度でも使える部位へ適材適所に用いていくだけでも新たな需要は相当量見込めます。

梁に限らずとも、使いやすい仕組みを研究していけば、まだまだ新たな用途は様々あり、実際都会での木質化も着実に進んできていると感じています。



多摩産材による木造の駅舎・戸越銀座駅

ぜひ木材業界の中での情報も活発にして、それぞれの特徴を出し合い活路を見出していけたらとの思いから今回の投稿をお引き受けした次第です。

この機会に、東京木材問屋協同組合の皆様にも多摩産材の現状や取り組みの一端でも知っていただき、 連携させて頂けるところが少しでもございましたら、お声がけ頂けますと幸いです。今回投稿のお誘い を頂いた伊藤様に感謝いたします。